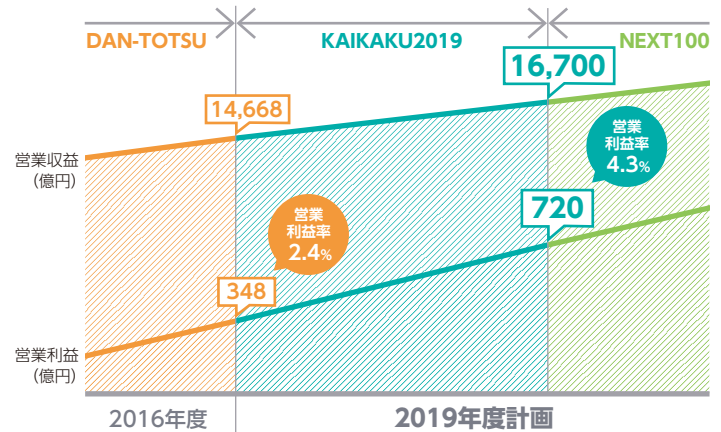


中期経営計画 KAIKAKU 20

2017年9月

ヤマトグループは、2017年9月に新中期経営計画
2019年に創業100周年を迎えるヤマトグル
持続的に成長していくための経営基盤を、「働き方

「KAIKAKU 2019 for NEXT100」の全体像



●数値計画〈連結数値目標〉

	2016年度実績	2019年度計画
連結営業収益	1兆4,668億円	1兆6,700億円
連結営業利益	348億円	720億円
利益率	2.4%	4.3%
ROE	3.4%	7.7%

	2016年度差	2016年度比
連結営業収益	2,031億円	113.8%
連結営業利益	371億円	206.4%
利益率	1.9%	179.2%
ROE	4.3%	226.5%

●積極的な投資

	2017年度~2019年度 合計
経常投資 ^{*1}	2,000億円
成長投資 ^{*2}	1,500億円
合計	3,500億円

※1 土地、建物、荷役機器、車両など
※2 デジタル・イノベーションや外部企業との
アライアンス、働き方改革など



全員経営を実践するための「働き方改革」

「KAIKAKU 2019 for NEXT100」では、「働き方改革」を最優先の課題とし、
グループ全体で「働きやすさ」と「働きがい」を構築し、ヤマトグループの原点である「全員経営」を実践します。

新たな働き方の実現

- ▶ 総労働時間の抜本的改善
- ▶ ライフステージに応じた自分らしい働き方を実現できる人事制度
- ▶ 短時間社員(有期・無期)がステップアップできる制度の構築
- ▶ ワークライフバランスの推進
- ▶ 社員のケアに目が行き届く管理者の配置拡充

「個の力」の最大化

- ▶ クロネコアカデミーを中心とした教育体系の構築
- ▶ 「社員の声」を経営に活かす仕組みの確立
- ▶ ダイバーシティのさらなる推進による外国人・高齢者・女性の活躍推進
- ▶ 障がい者雇用率2.5%

徹底的なオペレーションの効率化

- ▶ オープン型宅配便ロッカーや8次NEKOシステムによる集配オペレーションの効率化
- ▶ AI、ロボット技術などテクノロジーのフル活用

19 for NEXT100を発表

「KAIKAKU 2019 for NEXT100」を発表しました。
一歩が、節目を越えて次の100年(NEXT100)も
改革」と3つの構造改革を実行することで強化します。

POINT 3つの構造改革

改革1 デリバリー事業の構造改革

効率的なラストワンマイルネットワークの再構築と、継続的かつ適正なプライシング施策によって、デリバリー事業の集配キャパシティの拡大と収益力の回復を両立させます。

▶ 詳細は7ページ・8ページをご覧ください。

改革2 非連続成長を実現するための収益・事業構造改革

羽田クロノゲート、厚木・中部・関西の各ゲートウェイや沖縄国際物流ハブ、サザンゲートなど、主要基幹ターミナルとアジアを中心に広がるクロスボーダーネットワークを有機的に結び付け、スピード輸送ネットワークに付加価値機能を加える「バリュー・ネットワーク」構想をさらに進化させます。

改革3 持続的に成長していくためのグループ経営構造改革

グループの総合力を発揮し「稼ぐ力」を高めるため、「5つの変革」によって組織構造を改革し、アカウントマネジメント・管理会計・人事(評価)の三位一体の経営システムを刷新します。

実行する5つの変革

- 1 「機能軸組織」から「顧客軸組織」へ
- 2 「個別最適」から「全体最適」へ
- 3 「縦割の組織別収支管理」から「アカウントマネジメント」へ
- 4 「機能別投資」から「R&D“+D”による先取りの投資」へ
- 5 「自前主義」から「オープン主義」へ

POINT 経営基盤の強化 ● デジタル・イノベーションへの対応

最先端のデジタルテクノロジーを取り入れ、新たな事業を創出し、既存事業を進化・革新することに加え、既存ビジネスにとって破壊的となるモデルに先手を打って機動的に対応します。

「R&D“+D”機能」3つの戦略

- 1 クロネコビッグデータ構築と活用
- 2 コーポレートベンチャリングの活用
- 3 Disruptive(脅威)となり得るビジネスモデルの早期察知、対応策定

デジタル・イノベーション推進室(YDIC)の設置
(2017年4月)